

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-66	小学校	算数科	算数	第3学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	算数 306 算数 307	小学算数 3上 小学算数 3下		

## 1. 編修の基本方針

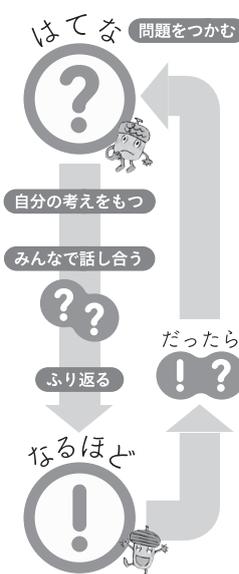
社会が急速に変化し、将来の予測が困難な時代を生きる子どもたちには、主体的に学び、社会と関わり、他者と協力しながら、自ら未来を創り出していく力を育成することが求められます。

生涯にわたってつづく学びの原点となる小学校教育では、自ら考えて「わかった・できた」を実感する喜びや、友だちと一緒に問題を解決する充実感、学びと学びがつながり深まったときの感動を味わわせ、次の学びへと向かっていく力にしていきたいと考えます。

本書は、教育基本法が掲げる教育の目的及び目標の実現に向けて、以下の基本方針のもとに執筆・編修にあたりました。

## 問いつづけ、よりよいものを求めて 改善しつづける子どもを育てる

- 1** 数学的活動の充実と、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて  
子どもの“問い”を軸に学習を進める教科書
- 2** 思考力・判断力・表現力の育成のために  
数学的な見方・考え方を働かせて学び合う教科書
- 3** 生きて働く知識・技能の習得のために  
学びと学びを系統的につなげる教科書
- 4** 学びに向かう力、人間性等の涵養のために  
学び方を身につけ、算数を学ぶよさを実感する教科書



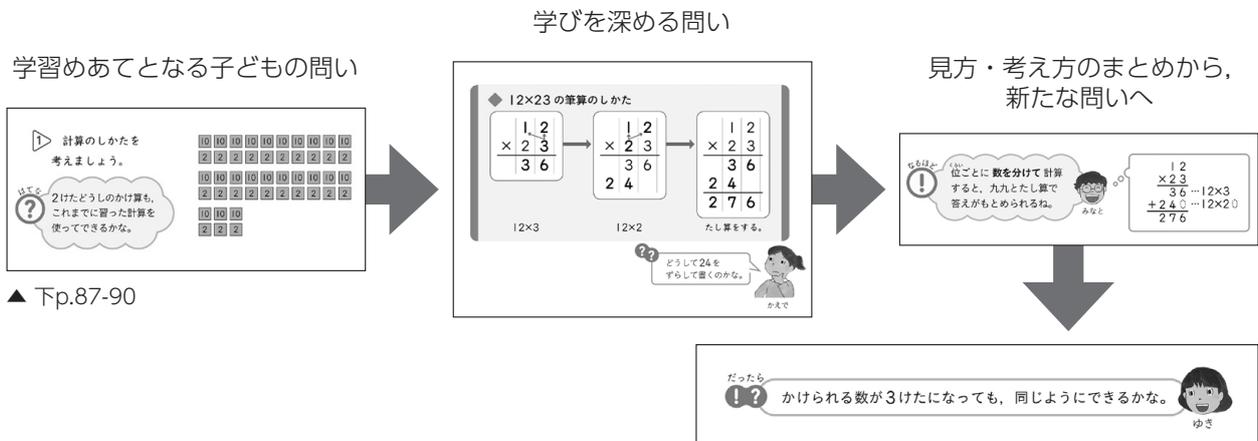
# 1

## 数学的活動の充実と、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて 子どもの“問い”を軸に学習を進める教科書

深い学びは、“問い”をもつことから始まります。“問い”をもち、学び合いを通して解決することで、学ぶ前よりも一歩成長することができます。そのような子ども一人一人の深まりを大切に、教科書を構成しています。

### 問いの連続でつくる数学的活動

子どもの<sup>はてな</sup>“**?**”から学習めあてをつくり、主体的・対話的な学びを通して“**問い ? ?**”を深め、<sup>なるほど</sup>“**!**”を見だし、さらに、<sup>だったら</sup>新たな“**問い ! ?**”へとつなげていきます。



### 「単元のまとめ」で学ぶ意義を実感する

単元導入の「きっかけ」ページでは、身近な題材から問題を発見し、算数の問題としてモデル化し、目的意識をもって数学的活動に取り組めるようにしています。

単元末「学んだことを使おう」では、単元で学習したことを日常場面に活用することで、「何ができるようになったのか」を実感できるようにします。

単元導入

単元末

▲ 上p.22

▲ 上p.31

単元導入

単元末

▲ 下p.50

▲ 下p.61

# 2

## 思考力・判断力・表現力の育成のために 数学的な見方・考え方を働かせて学び合う教科書

数学的な見方・考え方を顕在化し、繰り返し用いてきていることを意識づけることにより、課題を解決したり探究したりする際の手段として、子どもが主体的に活用していけるようにします。

### 数学的な見方・考え方

「算数で使いたい考え方」として、類推、帰納、演繹といった数学的な考え方を子どもの言葉で示し、自分で考えたり、友だちと学び合ったりする際に使っていけるようにします。

また、「算数のミカタ」として、各領域を貫く数学的な見方にも着目できるようにし、以降の学習で繰り返し用いていきます。

算数のミカタ  $\frac{1}{5} + \frac{2}{5}$  の計算では、 $\frac{1}{5}$  をもとにして、 $\frac{1}{5}$  が  $(1+2)$  という見方をしました。

これまでも使ってきた数の見方だね。

$\frac{10+20}{10}$  が  $1+2$      
  $\frac{1万+2万}{1万}$  が  $1+2$      
  $\frac{1}{5} + \frac{2}{5}$  が  $1+2$

▲ Tp.45

算数で使いたい考え方

2年生の学びをふり返ってみよう。今まで使ってきた数や物の見方は、どうしてそうなのかな？

① じゅんじょよく考える

② 似た問題とくらべる

③ わけをはっきりさせる

④ ほかの場合も考える

▲ tp.6

### 読解力・表現力

全国学力・学習状況調査のB問題では、記述式問題に課題がみられます。そこで、あえて不十分な説明を提示し、修正・改善のしかたを考える活動を取り入れることで、条件をおさえながら筋道立てて説明する力を育てるようにしています。

2 はるさんは、つくえとドアの間に、できるだけ大きい本だなをおきたいと考えています。

②から④のどの本だなをおけばよいでしょうか。

はるさんの部屋

つくえ 100cm

ドアと本だながぶつかないようにしたい。

75cm

2m10cm ベッド

② 1m20cm x 70cm

③ 1m20cm x 80cm

④ 1m20cm x 90cm

はじめに、ドアを倒れたときのつくえとドアのすき間の長さについて調べます。この長さを使って調べればよいでしょうか。「はるさんの部屋の図」に○をつけます。

どの本だなをおけばよいか、はるさんは次のようにせつめしています。かえてさんとみなさんの意見を記入して、せつめしなおしてみよう。

つくえとドアのすき間の85cmに合わせる本だなは、横の長さが□cmの本だなです。

どのように85cmをとらせたの、式で説明するといひ。

85cmのすき間に合わせる本だなは、はるさんより、でもかえてさんより大きい本だなをおくことをせつめしたほうがよい。

本だなを、ドアとベッドの間に置くことはできるかな。

②から④の本だなの中で、ドアとベッドの間におけるものはありますか。式や図、言葉を使ってせつめしよう。

▲ Tp.112-113

### 4 コマ漫画

単元まとめでは、学んだことのよさや考え方を振り返る4コマ漫画を設け、単元や領域を貫く数学的な見方・考え方を意識づけ、学びをつなげていきます。

○ わり算で、あまりのある場合についてふり返ってみよう。

みんなで同じ数ずつクッキーを分けよう。

わり算だから  $8 \div 3$  あれ？ あまるよ。

あまりがあってもわり算  $8 \div 3 = 2$  あまり2 あまりの2こはわたしが食べる。

だいたいじょうぶ。お父さんが入れば、わりされるよ。

お父さんも食べた。

▲ Up.102

○ コンパスの使い方をふり返ってみよう。

こうすると円ができる。

身のまわりのいろいろなところには円があるよ。

ぼくが中心。

この長さが半径。

あ、こゝなと3にも

▲ Up.130

# 3

## 生きて働く知識・技能の習得のために 学びと学びを系統的につなげる教科書

知識・技能は、一度で定着するものではありません。だから、確実な定着を図るために、既習事項を振り返りやすくしています。知識・技能を繰り返し用い、新しく学ぶことと既習事項を結びつけることで、理解が深まっていきます。

### 考えるヒント

単元まとめでは、各種学力調査でつまづきがみられる問題に対して「考えるヒント」を掲載して、丁寧に指導・支援にあたれるようにしています。

4-③④: 考えるヒント 見つけてから計算しよう

$4.2+5.7$  を  $4+6.0$  とみて、答えを見つめよう。

$$\begin{array}{r} 4.2+5.7 \\ \phantom{4.} \phantom{2.} \phantom{0.} \\ \phantom{4.} \phantom{2.} \phantom{0.} \\ \hline 4. \phantom{2.} \phantom{0.} \phantom{0.} \\ \phantom{4.} \phantom{2.} \phantom{0.} \phantom{0.} \\ \phantom{4.} \phantom{2.} \phantom{0.} \phantom{0.} \\ \hline 4. \phantom{2.} \phantom{0.} \phantom{0.} \phantom{0.} \end{array}$$

$4+6.0=$   だから、 $4.2+5.7$  の答えは  くらいになります。

$4.1-2.5$  を  $4.0-2$  とみて、答えを見つめよう。

$$\begin{array}{r} 4.1-2.5 \\ \phantom{4.} \phantom{1.} \phantom{0.} \\ \phantom{4.} \phantom{1.} \phantom{0.} \\ \hline 4. \phantom{1.} \phantom{0.} \phantom{0.} \\ \phantom{4.} \phantom{1.} \phantom{0.} \phantom{0.} \\ \phantom{4.} \phantom{1.} \phantom{0.} \phantom{0.} \\ \hline 4. \phantom{1.} \phantom{0.} \phantom{0.} \phantom{0.} \end{array}$$

$4.0-2=$   だから、 $4.1-2.5$  の答えは  くらいになります。

▲ Tp.81

### 学びのマップ

既習事項を巻末「学びのマップ」にまとめ、関連する単元からリンクし、学年を超えて既習事項を振り返れるようにしています。

▶ Up.150-155  
Tp.133-139

# 4

## 学びに向かう力、人間性等の涵養のために 学び方を身につけ、算数を学ぶよさを実感する教科書

### 学び方を学ぶ

巻頭「算数をはじめよう！」で示した学習の進め方を、授業開き教材「ひき算のヒミツ」で実践してみます。主体的・対話的で深い学びの過程を共有することで、質の高い学び合いができる学級づくりに生かしていきます。

### 何ができるようになるか

教科書全体で、活動の目的意識を大切にしています。単元導入の「きっかけ」ページ、単元末「学んだことを使おう」、学年末「算数を使って考えよう」などの数学的活動を通して、「何ができるようになるか」を実感しながら算数の学習に取り組めるようにします。

算数を  
はじめよう!

ひき算のヒミツ

1 2 3 4 5 の数字から  
2つ選んで、2けたの数をつくりましょう。

2 けたの数  
21 31 41 51  
32 42 52  
43 53

2けたの数  
21 31 41 51  
32 42 52  
43 53

2けたの数  
21 31 41 51  
32 42 52  
43 53

▲ Up.2-9

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
1 かけ算のきまり	自ら問いをもち、追究し、さらなる問いへとつなげていく姿をフキダシで示し、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うようにしました。(第1号)	上p.11～15
2 時ごとと時間	図書館や消防署を見学する題材を通して、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うようにしました。(第2号)	上p.28～30
3 たし算とひき算	牛乳パックや空き缶のリサイクル活動に参加する題材を通して、環境保全に寄与する態度を養うようにしました。(第4号)	上p.34, 39
4 わり算	多様な解決方法を出し合い、高め合う活動を通して、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うようにしました。(第2号)	上p.62
5 長さ	巻尺の字義から「尺」の単位を紹介したり、東京日本橋にある里程標を掲載したりして、伝統や文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うようにしました。(第5号)	上p.69, 74
6 表とぼうグラフ	身のまわりの安全について考える題材を通して、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画する態度を養うようにしました。(第3号)	上p.75
7 あまりのあるわり算	野菜や果物を収穫する題材を通して、生命を尊び、自然を大切にすることを養われるようにしました。(第4号)	上p.93
8 10000より大きい数	自ら問いをもち、追究し、さらなる問いへとつなげていく姿をフキダシで示し、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うようにしました。(第1号)	上p.107～110
9 円と球	「オリンピック・パラリンピックで円と球さがし」の活動を通して、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしました。(第5号)	上p.130～131
10 かけ算の筆算	友だちのノートの書き方のいいところを見つける活動を通して、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うようにしました。(第3号)	下p.16～17
11 重さ	自分で身のまわりの単位を調べ、単位の図鑑を作る活動を通して、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うようにしました。(第2号)	下p.32
12 分数	自ら問いをもち、追究し、さらなる問いへとつなげていく姿をフキダシで示し、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うようにしました。(第1号)	下p.44～45
13 三角形	いろいろな三角形を協力して作る活動を通して、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うようにしました。(第3号)	下p.50
14 小数	節水について考える題材を通して、環境の保全に寄与する態度を養うようにしました。(第4号)	下p.66
15 2けたの数のかけ算	ペットボトルのキャップを工作に再利用する題材を通して、環境の保全に寄与する態度を養うようにしました。(第4号)	下p.84～85
16 □を使った式と図	学び合いによって共通する考えを見だし解決する活動を通して、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うようにしました。(第3号)	下p.98
17 そろばん	伝統工芸品としてのそろばんを紹介することで、伝統や文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うようにしました。(第5号)	下p.108
□ 算数を使って考えよう	給食の食べ残しについて考える題材を通して、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うようにしました。(第4号)	下p.110～111
巻頭・巻末	身のまわりの建造物等を算数の学習と結びつけて捉えることにより、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うようにしました。(第2号)	上・表2・3 下・表2・3

## 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

### ○カラーユニバーサルデザイン（CUD）や特別支援教育への対応

色覚等の特性をふまえた、判読しやすい配色やレイアウト、表現方法、文字（ユニバーサルデザインフォント）などの工夫により、すべての児童にとって学びやすい紙面づくりに配慮しています。

### ○「パラリンアート」の取り組み

さまざまな人々との共生について理解を深める観点から、障がいのある人が描いた作品（障がい者アート）を教科書に掲載することにより支援する、「パラリンアート」の活動にも取り組んでいます。

### ○地球となかよし

教科書の印刷には、環境にやさしい再生紙と植物油インキを使用し、地球環境への負荷軽減に配慮しています。

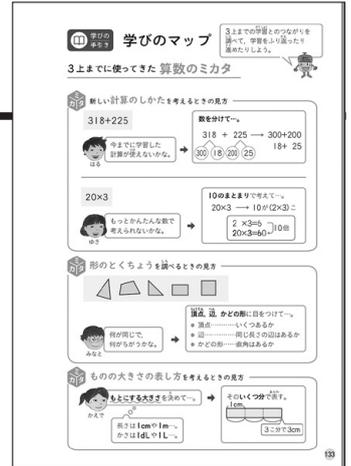


# 2

## 思考力・判断力・表現力の育成

### 数学的な見方・考え方

- 「算数で使いたい考え方」として、類推、帰納、演繹といった**数学的な考え方を子どもの言葉で示し**、学び合いに使っていけるようにしています。(Up.6)
- 「算数のミカタ」として、**各領域を貫く数学的な見方にも着目**できるようにし、以降の学習で繰り返し用いていきます。(Up.150, Tp.45, Tp.60, Tp.133等)
- 答えを求めて終わりではなく、**新たな問題発見につなげる学び**（ から  ）によって、**統一的・発展的に考察する力を**養います。(Up.36～38等)
- 単元まとめでは、**学んだことのよさや考え方を振り返る4コマ漫画**を設け、単元や領域を貫く**数学的な見方・考え方を意識づけ**、**学びをつなげて**いきます。(Up.20, Up.102, Up.130等)

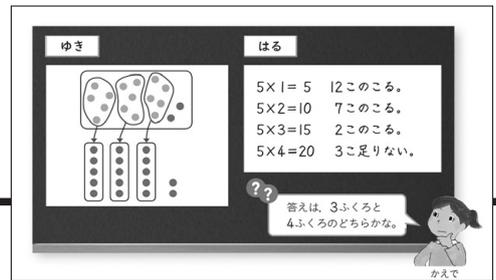


▲ Tp.133

### 言語活動と学び合い

- 友だちの発表に対して質問したり付け足したりする**フキダシ**を示し、**学びを深める話し合い**ができるようにしています。(Up.94, Tp.38等)

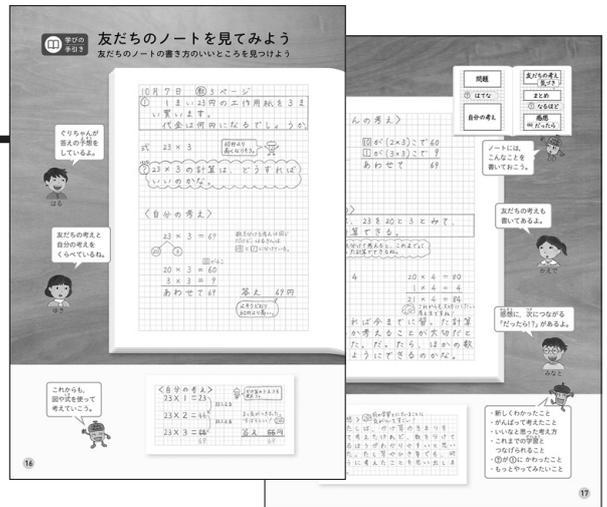
▶ Up.94



### ノート指導

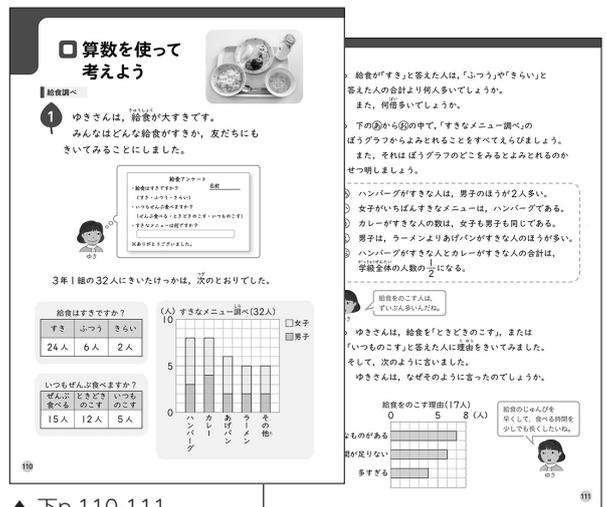
- 友だちのノートの書き方のいいところを見つける活動を設け、**学び合いを通してノート指導**ができるようにしています。(Up.26～27, Tp.16～17)

▶ Tp.16-17



### B問題への対応

- 全国学力・学習状況調査のB問題を踏まえ、**単元末と学年末の2段階で活用問題**を設けています。学年末「算数を使って考えよう」では、**複数の学習内容にまたがる総合的な活用問題**を設定し、問題把握、見通し、実践、評価・改善といった一連の問題解決を通して、筋道を立てて考え表現する力を育成します。(Tp.110～113)
- B問題で課題がみられる記述式問題**について、不十分な説明を提示してそれを修正・改善する活動を取り入れることで、条件をおさえながら筋道立てて説明する力を育てるようにしています。(Tp.113)



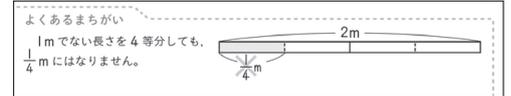
▲ Tp.110-111

# 3

## 生きて働く知識・技能の習得

### つまづきやすい問題の意識化

- 単元まとめでは、各種学力調査でつまづきが見られる問題に対して「考えるヒント」を掲載し、丁寧に指導・支援にあたるようにしています。(Up.66, Up.117等)
- 脚注コラム「よくあるまちがい」では、誤答例を示すことによって、正しい理解が得られるようにしています。(Tp.40, Tp.89等)



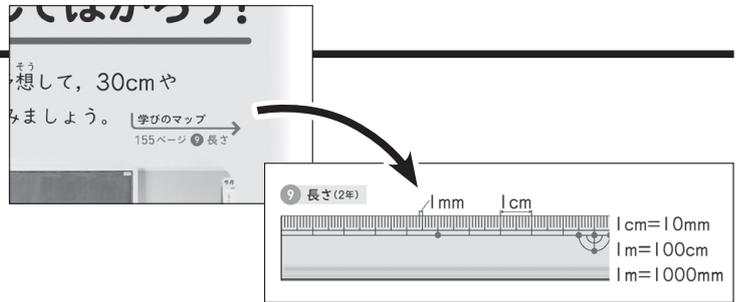
▲ Tp.40

### 基礎的・基本的な知識・技能

- 巻末の練習問題「ステップアップ算数」は「きほんの問題」と「ジャンプ問題」で構成し、個に応じて、主体的に家庭学習に取り組めるようにしています。(Up.137～147, Tp.119～129)

### 知識・技能をつなげる工夫

- 既習事項を巻末「学びのマップ」にまとめ、関連する単元からリンクし、学年を超えて既習事項を振り返れるようにしています。(Up.150～155, Tp.133～139)



▲ Up.155

# 4

## 学びに向かう力、人間性等の涵養

### 学び方を学ぶ

- 巻頭「算数をはじめよう！」で示した学習の進め方を、授業開き教材「ひき算のヒミツ」で実践してみます。主体的・対話的で深い学びの過程を共有することで、質の高い学び合いができる学級づくりに生かしていけます。(Up.7～9)

### もっと学びたい意欲に応える

- 知的好奇心に応える特設教材やコラムを随所に設けています。(Up.50, Tp.83等)



▲ Up.50

▲ Tp.83

### 何ができるようになるか

- 教科書全体で、活動の目的意識を大切にしています。単元導入の「きっかけ」ページ、単元末「学んだことを使おう」、学年末「算数を使って考えよう」などの数学的活動を通して、「何ができるようになるか」を実感しながら算数の学習に取り組めるようにします。

# 5

## その他の配慮事項

### 学年間の円滑な接続

- ・復習ページでは、次単元で使う知識・技能を確認する問題を設けています。(Up.33, Up.92等)
- ・単元の導入などでは、既習事項をスパイラルに扱ったり、関連する内容にリンクしたりして、系統的に学習を進められるようにしています。(Up.34, Up.93等)

### 他教科等との関連

- ・他教科や学校の活動と関連した場面を題材として用いるように配慮し、必要感をもって学習に取り組めるようにしています。(Up.22, Up.88等)
- ・友だちと学び合い、互いのよさを認め合うなど、道徳科との関連を図っています。(Up.8, Up.26～27等)

### 個に応じた指導，家庭学習

- ・家庭学習のページ「ステップアップ算数」は、2段階のレベルで問題を構成し、理解の程度に応じて取り組めるようにしています。(Up.137～147, Up.119～129)
- ・単元まとめでは、「ふり返ろう(知識)」と「たしかめよう(技能)」に分けて、学習内容を簡潔にまとめているので、家庭学習等でも振り返りやすくなっています。また、「考えるヒント」は、つまずきがちな子どもへの丁寧な指導・支援として効果的です。(Up.48～49, Up.116～117等)
- ・脚注コラム「センスアップ」では、学習進度が速い学級や児童が取り組める問題を設けています。(Up.100, Up.19等)

### 特別支援・ユニバーサルデザイン

- ・カラーユニバーサルデザインやユニバーサルデザインフォントの採用により、すべての児童にとって学びやすい紙面づくりに配慮しています。

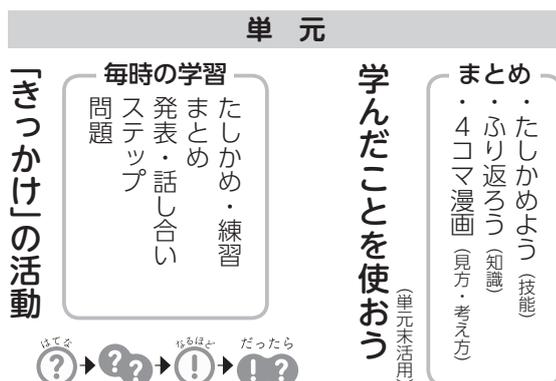
### コンピュータなどの活用

- ・ を付けたところでは、デジタルコンテンツを活用して効果的に学習ができるようにしています。(Up.82「ぼうグラフツール」, Up.124「円のかき方」等)

### 教科書の構成

算数をはじめよう！

- ・ひき算のヒミツ (授業開き教材)
- ・算数で使いたい考え方
- ・学習の進め方



ふくしゅう

算数ワールド (特設教材)

算数を使って考えよう

(学年末活用)

学年のまとめ

自分で取り組むページ

- ・教科書に出てきた言葉
- ・学びのマップ (既習内容のまとめ)
- ・学びの手引き (図のかき方等)
- ・ステップアップ算数 (家庭学習)

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
1 かけ算のきまり	A (1) ア (ウ) A (3) ア (ア) A (3) ア (ウ) A (3) イ (ア)	上 p.17 上 p.16 ~ 18, p.21 上 p.10 ~ 21 上 p.10 ~ 21	8
2 時こくと時間	C (2) ア (ア) C (2) ア (イ) C (2) イ (ア)	上 p.30, 32 上 p.22 ~ 29, p.31 ~ 32 上 p.22 ~ 32	6
3 たし算とひき算	A (2) ア (ア) A (2) ア (イ) A (2) イ (ア)	上 p.34 ~ 49 上 p.34 ~ 49 上 p.34 ~ 49	12
4 わり算	A (4) ア (ア) A (4) ア (イ) A (4) ア (ウ) A (4) ア (エ) A (4) ア (オ) A (4) イ (ア) A (4) イ (イ)	上 p.51 ~ 66 上 p.51 ~ 66 上 p.51 ~ 66 上 p.51 ~ 62, p.65 ~ 66 上 p.63 ~ 66 上 p.51 ~ 66 上 p.51 ~ 66	11
5 長さ	C (1) ア (ア) C (1) ア (イ) C (1) イ (ア)	上 p.70 ~ 74 上 p.67 ~ 69, p.72 ~ 74 上 p.70	5
6 表とぼうグラフ	D (1) ア (ア) D (1) ア (イ) D (1) イ (ア)	上 p.75 ~ 78, p.86 ~ 91 上 p.79 ~ 85, p.88 ~ 91 上 p.75 ~ 91	9
7 あまりのあるわり算	A (4) ア (ア) A (4) ア (イ) A (4) ア (ウ) A (4) ア (エ) A (4) イ (ア) A (4) イ (イ)	上 p.93 ~ 103 上 p.93 ~ 103	8
8 10000 より大きい数	A (1) ア (ア) A (1) ア (イ) A (1) ア (ウ) A (1) イ (ア)	上 p.106 ~ 112, p.115 ~ 117 上 p.113 ~ 117 上 p.111 ~ 112, p.116 ~ 117 上 p.106 ~ 117	8
9 円と球	B (1) ア (ウ) B (1) イ (ア)	上 p.118 ~ 131 上 p.118 ~ 131	9
10 かけ算の筆算	A (3) ア (ア) A (3) ア (イ) A (3) イ (ア)	下 p.2 ~ 19 下 p.2 ~ 19 下 p.2 ~ 19	12
11 重さ	C (1) ア (ア) C (1) ア (イ) C (1) イ (ア)	下 p.20 ~ 34 下 p.28 ~ 34 下 p.30 ~ 32	9
12 分数	A (6) ア (ア) A (6) ア (イ) A (6) ア (ウ) A (6) イ (ア)	下 p.36 ~ 43, p.47 ~ 49 下 p.42 ~ 43, p.47 ~ 49 下 p.44 ~ 49 下 p.36 ~ 49	10
13 三角形	B (1) ア (ア) B (1) ア (イ) B (1) イ (ア)	下 p.50 ~ 63 下 p.58 ~ 60, p.62 下 p.50 ~ 63	9
14 小数	A (5) ア (ア) A (5) ア (イ) A (5) イ (ア)	下 p.66 ~ 73, p.80 ~ 81 下 p.74 ~ 81 下 p.66 ~ 81	11
15 2けたの数のかけ算	A (3) ア (ア) A (3) ア (イ) A (3) イ (ア)	下 p.84 ~ 95 下 p.84 ~ 95 下 p.84 ~ 95	10
16 □を使った式と図	A (7) ア (ア) A (7) イ (ア)	下 p.96 ~ 103 下 p.96 ~ 103	5
17 そろばん	A (8) ア (ア) A (8) ア (イ) A (8) イ (ア)	下 p.105 ~ 106 下 p.106 ~ 108 下 p.105 ~ 108	3
		計	145

# 編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-66	小学校	算数科	算数	第3学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	算数 306 算数 307	小学算数 3 上 小学算数 3 下		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項	ページ数
上 101	○日は何曜日?	1	A (4) ア (ア) 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。 上記に関連して、カレンダーの日にちと曜日の配列をもとに、日にちを7で割ったあまりに着目して日にちと曜日の間に規則性を見いだすことで、除法のあまりについての理解を深める。	1
下 15	② 空気入れとバスケットボールをセットで買うと、ねだんが4312円になります。 このセットを3こ買うと、代金は何円になるでしょうか。	1	A (3) ア (ア) 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。 上記に関連して、 $4000 \times 3$ や既習の3位数 $\times$ 1位数の計算、また位取りの仕組みに着目して、4位数 $\times$ 1位数の計算の仕方を発展的に考えることで、乗法の計算について理解を深める。	0.5
下 47	センスアップ	1	A (6) ア (ア) 等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることを知ること。また、分数の表し方について知ること。 上記に関連して、 $1/2$ m, $1/3$ m, $1/4$ m, ……のテープ図を並べて、異分母分数の大きさに着目させて、分数についての理解を深める。	0.25
合 計				1.75

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容